

参画だより

NO. 28

2006. 7. 10

弘前市民参画センター

弘前市は昨年度、地域に男女共同参画の視点を広める実践者を養成する「男女共同参画推進活動講座」を開講し、受講した7名は約8カ月間にわたり、男女共同参画の視点で活動を企画・実践する方法を学びました。修了から4カ月近くが経過した5月16日、受講者と運営スタッフが参画センターに集合し、講座の感想やこれからの活動などについて話し合いました。

受講生の感想

佐藤：講座では「広報ひろさき」への男女共同参画記事の掲載を働きかけましたが、それが実現したいへんうれしです。

男女共同参画推進活動講座を振り返って!!



「学びから実践に!新たなスタート」

福士：一緒に勉強させていただいた期間は、私にとって宝物になりました。いろいろな人とも出会え、本当にかけがえのない時間だったと心から感謝しています。

柴：私が所属している「弘前友の会」では、会員が持つ子育ての知識を若い世代に伝えられないでいる、という状態が長く続いています。この講座を終えたときに、「自分から動かなきゃだめだ」と強く感じました。自分が先頭に立って、出前講座でもなんでもやっていこう、と考えています。

石岡：この講座に出てから、さまざまな場面で男女共同参画はまだまだ進んでいないと感じるようになりました。職場内の委員会でも女性の視点が不足しているので、学んだことを生かし、働きやすい職場づくりにも関わっていききたいと思っています。

近藤：講座が終わった直後は達成感で半ば放心状態でしたが、時間がたつて冷静に自分の書いたものも見直せるようになってきました。

工藤：以前から関わっている福祉オンブズマンの活動や、新しく始めた成年後見制度を学ぶ活動で、講座の企画や依頼文の書き方など、早速学んだことが役立っています。

三浦：中途半端で終わったような気がして、今も心に引っかかる

つています。その心残りを解消する機会もないまま仕事で忙しい毎日ですが、それを乗り越えればまた新しい視野が開けるのかな、と思っています。

運営スタッフから

佐藤：チラシ作りなどの具体的な作業を自分ですることが今までなかったため、私にとってもよい経験となりました。みなさんもそれぞれ活躍のようで、うれしく思います。

山谷：完成した報告書をスパーバイザーの矢口悦子さんにお見せしたところ、すばらしい取り組みだといへん感激してくださいました。みなさんパソコンなどさまざまな技術を駆使していて、私も勉強になりました。

工藤：これから実践活動をしていくうえで、多様性をお互いに認め合う、という気持ちで大事にしてほしいと思います。広い視野で、「男女共同参画」という共通のテーマのもとにまたみなさんで何か活動できたらいいのではないでしょう



所長から

所長：みなさん講座で学んだことを生かして各方面で活躍のようですが、ご相談いただければ、われわれ職員も可能な限り、企画や事業の実施に協力していきます。弘前市の男女共同参画の拠点施設であるこの市民参画センターとの関わりは、今後も持ち続けてほしいと思います。

座談会は、近況報告やそれぞれの活動のPRなど話尽くす、2時間に及びました。また、今後も受講生同士で定期的に集まることになり、学びから実践へ向け、新たなスタートを切りました。

出席者

受講者

NPO男女共同参画研究所

弘前市

石岡桂子
工藤弘子
近藤陽子
佐藤陽子
柴祐子
福士よし子
三浦幸子
佐藤陽子
山谷文子
工藤緑
時苗貴嗣(企画課長・市民参画センター所長)
北岡聖子(同所長補佐)

地域のたまり場をめざって

らるごハウス 下山 るり子



リフォームやリサイクルで、工夫して作られている「らるごハウス」

作った動機は？

以前、男女差別を感じさせない職場で働いていたけれど、会社と家庭のギャップを感じていたの。仕事と家庭・子育てを両立させたいと考えて、子どもと接する機会も工夫したけれど、子どものためには、やはり、父親か母親が家にいたほうが良いと判断し、結局自分が辞めたの。その経験を生かしたいと思ったから。

らるごハウスとは？

地域のたまり場をめざして、物置小屋をリフォームして作った小さな家です。子育てをサポートする場所は、保育園や児童館など色々あるけれど、その中の選択肢の1つとして、家庭的な雰囲気の中で、生活マナーなどを教えながら子育てを手伝える場所があればいいなと思って。母親の育児相談にのったり、話し相手になったりできたらすごくいいと思う。地域で関わることはとても大事なことで考えています。



できたことを生かしながら、少しでも人の役に立てることができればいいと思うの。でも、それって自分のためにもなっているんだからね。急がずゆっくり、豊かな人生を送りたいという願いをこめた名前なの。

資金は？

今は、お金があるとできることっていっぱいあるでしょう。でも、資金をあまりかけないで、リサイクルやリフォームとか、地元のものを使うなどして物を大事に活用しているの。らるごハウスにある食器棚も母親の形見の桐の和ダンスを自分でリフォームしているし、クロスやランチョンマットも着物をリフォームしたもの。壁掛けは廃材を利用して作ったの。

「ワークいずみ」さんのつながりは？

農業の勉強をしたときに、たまたま「ワークいずみ」の職員三上さんと知り合いになり、近所にあることを知って、ワークいずみを何回か訪問したり、お手伝いしに伺ううちに、障害者に対しての偏見をなくしていくこと、地域がいっしょになって参画していくことがとても大切だと思うようになったの。



「ワークいずみ」のみなさんと野菜栽培

私は考えたら、やってみようと思うの。知人の協力もあり、ワークいずみのみなさんの体験学習と地域のたまり場作りを兼ねて、石垣や花壇を作ったり、お昼ご飯をいっしょに作って食べたりしています。4年前から、空いている畑を利用してもらい、施設のみなさんが自分達で食べるためのジャガイモをいっしょに植えています。いつもここに作業しに来るときは、手作りのケーキでおもてなししているのよ。

（精神障害者小規模通所授産施設）

今後の抱負は？

このらるごハウスで、子育て中のお母さんとかに、家庭の雰囲気の中で、郷土料理を味わってほしい。地産地消で、自分たちが作った旬の野菜やハーブを使って。ここに



みんなで作った花壇や畑

来たら、ホッとするようなおもてなしをしたいの。今年も勉強の年。友達といっしょに月2回第2・4の木曜日に材料費として600円いただいて、料理を作っておもてなしをしているの。無料のボランティアだけだと続かないと思うから。そして活動が大きくなって、次の世代に受け継がれていくようにしなければいいなと思ってる。そんな夢をいっぱい持っているの。だから、みんなに夢を話すの。すると必ず共感してくれる人が出てきます。発信しなければ、来ないと思うの。

《お問い合わせ先》
子育ての相談や、らるごハウスの利用について
0172-880676
(自宅)



さんかくネットつどいの広場

救急救命法・音楽遊び

「子育てに関わる参加者に情報いっぱい」

子育て中の家族と子育てサポーターが、乳幼児の事故予防の講習や音楽遊びを体験したり、育児休業を取っている男性の育児体験談を聞いたりして楽しく過ごしました。



救急救命士のお話に、子育てに関わる参加者は注意深く聞き入っていた

弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」主催による「さんかくネットつどいの広場」が今年も開催され、子育て中の家族へ交流の場や育児情報を提供しました。通算3度目の開催となった5月22日は、弘前消防署から講師を招き、乳幼児の事故予防について保護者の意識向上を呼びかけました。講話では、乳幼児の体の構造や行動の特徴から起きやすい事故の例が示され、参加者は身近にある危険について再認識していました。訪れた人からは、実践による救急救命法の指導がわかりやす



音楽に合わせて体を動かす遊びを楽しむ親子と指導する桜庭由美さん

くてよかった」、「事故の具体的な事例や対処法が知りたかった」などの感想が聞かれ、子どもたちを危険から守ろうとする意識の高さがうかがえました。会場の一角では「弘前友の会」によるおやつ紹介や、家族みんなで協力して家事を行う暮らし方の提案がなされ、訪れた人の目を引いていました。

6月24日には、音楽遊びと育児休業中の男性による育児体験談が企画され、多くの親子連れでにぎわいました。リトミック指導認定者の桜庭由

美さんが車座になった参加者の間を駆け回って、歌に合わせて体を動かしたり、リズムをとったりする遊びを紹介し、参加者は約一時間の音楽遊びを楽しみました。また、使われなくなったリコーダーを活用して合奏をするサークル「眠ってるリコーダーお目覚め部」のメンバーが、「となりのトトロ」や「もののけ姫」の主題歌などを演奏し、会場を盛り上げました。

音楽遊びに続いて、今年4月から1年間育児休業を取得している富岡拓身さんの育児体験談が披露され、子育ての苦労や喜びなどの話に、参加者は興味深く聞き入っていました。子育て中の男性へのアドバイスを求められると、富岡さんは「自分の場合、男性が育児休業をとっている、というだけで目立っているが、特別家事・育児が得意というわけではなく、ごく普通のことをやっているだけ。手抜きしながらでも案外やっていけるもの。また、男性が育児休業をと



男性もどんどん育児休業を取ってくださいと富岡拓身さん

育児体験談・ボランティア

ボランティアで参加協力してくださった「弘前友の会」と「リコーダーお目覚め部」



ることに対する周囲の反応もまだまだ微妙なので、男性にもどんどん育児休業をとってもらえるといいと思います」とエールを送りました。託児サポートとして弘前大学のサークル「さくらボランティア」の学生たちも訪れ、おもちゃづくりや音楽遊びで子どもたちと交流したほか、弘前市在住のイラストレーター「田沢純子さんの絵が展示され、会場に花をそえていました。

今年度の「つどいの広場」は9月23日、11月中旬にも実施する予定です。



子どもたちとおもちゃづくりをする「さくらボランティア」の学生



問合先：弘前市民参画センター